

# 天蚕の恵みと新屋の屋敷林

天蚕からの富が生み出した『豊かな集落』

新屋一帯は、中房川の扇状地の水利条件の悪い土地でしたので、近世以降の用水整備等に伴い集落が成立してきました。しかし、明治に入ると周辺の村々と有明村を構成し、その中心地となりました。この急激な発展を支えたのが、荒れた土地に自生するクヌギを餌にする蛾の繭からの『天蚕糸』がもたらした富でした。この富は住まいの形を変え、暮らしを豊かにし、山麓の観光開発にもつながっていきました。



天蚕糸



新屋の屋敷林

## 協定団体：屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト

### 項目

### 内容

#### 環境の土台 田園

- 礫が多く、稲作に不向きな中房川扇状地の扇中央部
- 「砂地・凍み・乾燥」の3条件が整う天蚕に適した環境

#### 物語と 構成要素

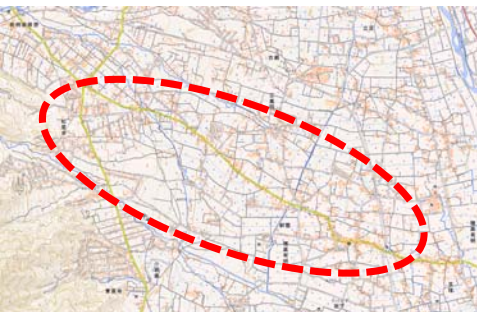
- 「**やまこ**」で生まれた富で立派な住まいへ変化
  - ・明治中頃には有明村3000haから年間800万粒の天蚕繭を生産
  - ・約90のカマ(繰糸所)があり、天蚕から柞蚕、家蚕で豊かなくらしへ
  - ・住宅建築も変化(かやぶきから本棟造へ)
- 防風を主目的に植えられた木々が年月を経て屋敷を囲む森に
  - ・かやぶき屋根材の飛散防止のための防風機能
  - ・曾根原家住宅は国内最古の本棟造系統の民家
  - ・ヤマからヒノキ、クリ等を植樹した屋敷林と本棟造の集落
- 有明の中心地への発展・山麓の観光産業にも寄与
  - ・大正期以降、村の中心として役場・学校などが集積し、発展
  - ・穂高温泉郷への引湯・山岳観光  
(有明温泉松尾寺内・鐘の鳴る丘他)

#### 産業の関 係・課題等

- 天蚕の振興
- 文化財の維持保全・活用
- 屋敷林の役割の変化と後継者不足

#### 市民活動の 内容、人材・ つながり

- 市民団体による文化財の活用
  - ・やまこの学校(鐘の鳴る丘集会所)
  - ・安曇野スタイル(曾根原家住宅)



やまこの繭



白壁の蔵と屋敷林



有明温泉(勝野義権提供) (穂高町誌より)



鐘の鳴る丘集会所  
(市指定文化財)



曾根原家住宅  
(国指定重要文化財)



引湯に使用した木管  
(穂高町誌より)



鐘の鳴る丘集会所でのやまこの学校



安曇野スタイルでの曾根原家の利用